俵　　賞

ヘルマン・シェンク君
(アーヘン工科大学名誉教授)

鉄鋼製錬の物理化学的研究と鉄鋼の科学技術の実際面への応用

教授は，1923 年にアーヘン工科大学鉄冶金学科を卒業し，ミュンスター大学化学研究所助手，アーヘン工科大学鉄冶金研究所助手を経て，1928 年クルップ社に入社，1937 年から 1942 年までジーゲルランド株式会社取締役，1942 年から 1950 年までボフマーフェライン鋳鋼株式会社取締役を歴任，1950 年から 1968 年までアーヘン工科大学教授鉄冶金研究所長を勤めた後，1969 年同大学名誉教授となつた．

この間，教授は鉄鋼の各分野における科学的，技術的，経済的進歩に関し次のような抜群の功績を挙げた．

先ず，経験的に発達した製鋼法について科学的説明を与えた先駆者としての業績が顕著である．すなわちご尊父ルドルフ・シェンク教授の貴重な科学的研究に基づいて，物理化学と熱力学の知識から製鉄反応を把握し，科学的法則に合致する体系を作り上げた．教授が自身の研究成果を関連データとともにまとめて 1934 年に出版した「製鉄プロセスの物理化学概論」は，溶鉄，溶鋼およびそれらのスラグ，ガスとの相互作用の問題を取扱つており，教授の多くの著書の中で最も著名である．これは製鉄反応研究の基礎をなすものとして今日まで世界中の多くの研究者，技術者に親しまれて来た．

業界に移つてからボフマーフェライン株式会社取締役になるまで急速に昇進したが，教授は鉄冶金学の実用面での広範囲な職務を通じて学問的な問題と経済的な問題を結付ける機会をえて，科学技術上の発達の経済的効果にたえず重要な提案を行なった．

ドイツ鉄鋼協会に関しては，常務理事としてトーマス博士とともに世界大戦後の困難な時代から新しい繁栄にまで導き，18 年間に亘り会長として同協会の活動を国際的なものとして指導して国内国外から尊敬を集めた．

また教授は卓越した学問的業績のほか後進の指導育成に熱意を注ぎ，その人格，業績を慕い外国から留学して教えを受けた者が多く，日本にも指導を受けたものが多い．

以上の通り，教授の鉄鋼製錬の物理化学的研究と鉄鋼の科学技術の実際面への応用に関する功績は画期的なものであって，本会表彰規程第 16 条により俵賞を受ける資格十分であると認める．